

基準（具体的な内容）	
防犯指導リーダー（地域で指導できる）	
①登下校時に注意するポイントについて具体的な指導ができる。	p.10～11
②登下校時の見守り活動が必要な箇所を把握している。	p.10～11
③通学路やスクールゾーンにおける危険箇所を把握し、点検できる。	p.12～13
①助けを呼んでも聞こえない場所を具体的に把握している。	
②犯罪者が「動きやすく」「見えにくい」時間について説明できる。	
③駐車場や空き地・資材置き場などでの安全確保について説明できる。	p.24～25
④公園やその他の遊び場で注意するポイントについて具体的に指導できる。	p.24～25
⑤駅周辺や繁華街・商店街などでの安全確保について説明できる。	
⑥「危険な道」について具体的に説明できる。	p.24～25
①校内で犯罪が発生した場合の避難の方法について具体的に説明できる。	
②学校で行われている防犯対策や防犯訓練の内容を知っている。	p.32～33
③学校で配布された防犯グッズを知っている。	
④校内に設置されている防犯器具とその設置場所を知っている。	
⑤学校に不審者が侵入したときの対処法を説明できる。	
⑥学校に不審者が侵入したとき、不審者を子どもに近づけないような対策をとることができる。	
①学校で子どもたちが指導されている防犯に関する内容を知っている。	p.32～33
②学校で利用されている防犯に関する道具の使い方が説明できる。	p.58～61
①子どもたちの一般的な生活のサイクルを知っている。	
②子どもの心理状態を適切に把握し、その場に応じた対応ができる。	p.48～49
①犯罪にあった後の子どもの心理現象の具体例や、適切な対応について知っている。（フラッシュバック現象など）	p.48～49
②精神的、肉体的なダメージについて、その種類や適切な対応について知っている。（身体的虐待やネグレクトなど）	p.48～49
①学校や警察への通報の方法を知っている。	
②地域の人や保護者に、警察への不審者の通報ができるように指導できる。	
③地域の警察が行っている巡回の時間、経路、目的を把握している。	
①緊急時の対応策を知っている。	
②緊急時に必要な連絡体制を整えることができる。	
③地域の学校や警察との連絡調整ができる。	p.34～35
④危険箇所の改善を関係機関へ要請・要望することができる。	p.34～35
①子どもとふれあう機会や場を設ける方法の具体的な事例を知っている。	
②地域住民から、防犯に関する情報の収集、不安に関する意見の聴取ができる。	
③地域の防犯担当（警察生活安全課・学校・自治会など）と情報交換ができる。	p.34～35
④近隣の地域との連絡調整の方法を知り、情報伝達や情報交換ができる。	
①防犯パトロール（「子ども見守り隊」など）の目的や効果、留意点について説明できる。	p.14～15
②登下校時に合わせての立ち番や巡回活動の重要性について指導できる。	
③パトロール中に事件が発生した場合の適切な対処方法を説明できる。	p.14～15
④防犯ボランティアのジャンパーや腕章などを身につけることの長所・短所を説明できる。	p.14～15
⑤青色回転灯パトロールについて理解し、説明できる。	